

# 災害から生命・財産を守る

## 平成29年度青森県総合防災訓練

「防災の日」の9月1日、稲垣町と車力町を会場に青森県総合防災訓練が行われ、自衛隊、県警、病院、消防など71の機関・団体から約3000人が参加。「若い力と地域の連携による氾濫と地震への備え」をコンセプトに、想定されるあらゆる状況での的確な対応について確認しました。



現場救護所に搬入された傷病者の容態を確認する救急隊員。医療処置のほか、傷病者の重症度を選別し治療や救急搬送の優先度を決定する



訓練を見守る三村県知事(左)と福島市長(右)



県内防災機関の災害現場責任者が集まり、現地合同調整所を設置。各部隊への調整・指示を行う

稲垣町で行われた自然災害対応訓練は、次の想定のもと実施されました。「津軽地方では数日前から大雨が降り続いて岩木川の水位が上昇し続けており、9月1日午前8時50分に岩木川氾濫注意情報が発表された。こうした中、同日午前9時00分、男鹿半島沖から津軽海峡の西側にかけての広い範囲を震源域とするM7・7の地震が発生。つがる市では、震度5強を観測し、市内の一部で地盤の液状化現象による建物の倒壊や火災が発生したほか、電力、水道、ガス、通信等のライフラインにも被害が生じている」。

緊急地震速報のサイレンを合図に、稲垣在宅介護支援センター南側車庫内に現地合同調整所を設置。自衛隊航空機などによる上空偵察から映像伝送で災害状況と住民の避難状況等を収集し、対応部隊の調整、指示を行いました。

各訓練会場では、負傷者の救助や傷病者の受け入れ、医療処置、ライフラインの復旧など、あらゆる状況を想定した訓練が実施され、各参加機関・団体は真剣な表情で自分たちの役割と対応方法を確認していました。

一方、車力小・中学校周辺では、弾道ミサイルが国内に着弾することを想定した国民保護訓練(避難訓練)が行われ、児童生徒や近隣住民ら約350人が参加しました。



被災現場から傷病者を応急救護所へ搬送



陸上自衛隊の展示ブースを見学するしげた保育園の園児



瓦礫の下や倒壊家屋からの救助救出訓練  
写真右は重機による瓦礫の除去作業。写真上は、チェーンソーなどで倒壊家屋の壁に穴を開け、要救助者を屋外へ救出



今回が初となる航空自衛隊の大型輸送用ヘリによる電源車の航空輸送訓練



災害拠点病院で要緊急治療者の対応を行う



稲垣中の屋上に取り残された要救助者を吊り上げ救出



航空自衛隊によるカレーの炊き出し訓練

弾道ミサイル発射の放送と警報サイレンが鳴り響くと、車力小児童とグラウンドにいた車力中学生徒、参加住民が頭部を守りながら中学校内に避難。階段の踊り場や体育館のステージ脇など、窓のない場所ので頭を抱えて身を伏せました。8月29日に北朝鮮の弾道ミサイルが日本上空を通過したこともあり、8分弱の短い時間でしたが、参加者は本番さながらに訓練に臨み、自らの命を守る意識を高めていました。車力中3年の木村健太君は「ミサイルが本当に飛んで来たら、訓練のようにしっかりと逃げられるようにしたい」と話していました。



車力町で実施された国民保護訓練。窓のない場所で頭を守りながら身を伏せる車力中学生徒(左)と、頭部を守りながら避難先の車力中学校内へ急ぐ地域住民(右)

閉会式で福島市長は「災害はいっやってくるかわかりません。普段から訓練を重ねることにより、被害を最小限に食い止めることができます。そして、地域の皆さんが助け合うことも重要なことです。本日の訓練を契機に、ますます精進されますようお願いいたします」と講評しました。